

Symantec Backup Exec 2012 SP2 管理者ガイドの補足情報

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合のみ使用することができます。

マニュアルバージョン: 2012 SP2

最終更新日: 2013 年 5 月

法的通知と登録商標

Copyright © 2013 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴは、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの著作権情報の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる TPIP ReadMe File を参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。本文書のいかなる部分も、Symantec Corporation とライセンスから事前に文書による許諾を得ることなく、無断で複製することはできません。

この文書は「現状のまま」提供され、すべての表示、黙示の条件、いかなる商品性の黙示的保証、特定目的適合性の黙示的保証を含む表明事項および保障事項、商品性の黙示的保証または非侵害を意味し、そのような免責が合法的に無効である場合を除き放棄されます。Symantec Corporation およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その他の後継規則の規定により制限権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示、開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043
<http://www.symantec.com>

管理者ガイドの補足情報

この文書では以下の項目について説明しています。

- [管理者ガイドの補足情報について](#)
- [『Backup Exec 2012 管理者ガイド』へのリビジョン](#)
- [『Backup Exec 2012 管理者ガイド』への追加](#)

管理者ガイドの補足情報について

補足情報には、『Symantec Backup Exec 2012 管理者ガイド』への追加事項および変更事項が記載されています。

p.5 の『[Backup Exec 2012 管理者ガイド](#)』へのリビジョン」を参照してください。

p.14 の『[Backup Exec 2012 管理者ガイド](#)』への追加」を参照してください。

『Backup Exec 2012 管理者ガイド』へのリビジョン

次の表は修正されたトピックを記述したものです。

表 1-1 『Backup Exec 2012 管理者ガイド』へのリビジョン

トピック	章	リビジョン
リモートコンピュータへの Backup Exec のインストールに関する特別な考慮事項	インストール	以下の項目を特別な考慮事項の表に追加する必要があります。 32 ビットと 64 ビットのコンピュータ 32 ビットコンピュータから 64 ビットのコンピュータに Backup Exec をブッシュインストールしようとする、64 ビットのインストールメディアの挿入を求められる場合があります。

トピック	章	リビジョン
<p>リモートコンピュータへの Agent for Windows のプッシュインストールについて</p>	<p>インストール</p>	<p>Windows Server 2012 が以下の項目に追加されました。</p> <p>Windows Vista/Server 2008/7/Server 2012</p> <p>Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7 または Windows Server 2012 が実行されているコンピュータに Backup Exec オプションをプッシュインストールするには、インストール先のコンピュータの Windows ファイアウォールの例外リストで特定の項目を有効にする必要があります。</p> <p>有効にする必要がある項目は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ファイルとプリンタの共有 ■ Windows Management Instrumentation (WMI) <p>詳しくは Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。</p> <p>ドメインに属さない Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7 または Windows Server 2012 がインストールされたコンピュータに Backup Exec オプションをプッシュインストールするには、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ エージェントかオプションをプッシュインストールするコンピュータの管理者アカウントが送信先コンピュータでも定義済みであることを確認する ■ インストール処理中は送信先コンピュータのユーザーアクセス制御を一時的に無効にする <p>詳しくは Microsoft のサポート技術情報を参照してください。</p>

トピック	章	リビジョン
ファイルとフォルダのオプション	バックアップ	<p>項目[ファイルのバックアップ方法]の説明には[カタログを使用]する方法について、次の注意を含む必要があります。</p> <p>Advanced Disk-based Backup Option のオフホストバックアップ機能はカタログを使用する方法をサポートしません。</p>
ディスクストレージデバイスの場所の変更	ディスクベースのストレージ	<p>Agent for VMware か Agent for Microsoft Hyper-V がインストールされている環境については、この手順に新しい手順が追加されました。</p> <p>p.12 の「ディスクストレージデバイスの場所の変更」を参照してください。</p>
ディスクストレージと仮想ディスクのストレージの傾向分析について	ディスクベースのストレージ	<p>次の情報は[使用領域の履歴をまだ収集中です]と[利用可能な統計情報が不十分です]のストレージの傾向分析の状態の説明に含まれていました。</p> <p>ディスクストレージを作成した後、Backup Exec がストレージを概算するのに十分な情報を集めるのにおよそ 1 カ月かかることがあります。</p>
ファイアウォール環境での Backup Exec の使用について	構成と設定	<p>次の例のエントリに示すポート番号は正しくありません。</p> <p>ndmp 100000/tcp #Network Data Management Protocol</p> <p>ポート100000は有効なNDMPポートではありません。NDMPの正しいポート番号は10000です。そのポート番号が別の処理によって使用中の場合、NDMPポートを別のポート、たとえば9999などに変更できます。</p>
ファイルがバックアップ済みかどうかを判断するための Backup Exec の設定について	バックアップ戦略	<p>このトピックには次の注意が含まれる必要があります。</p> <p>Advanced Disk-based Backup Option のオフホストバックアップ機能はカタログを使用する方法をサポートしません。</p>

トピック	章	リビジョン
<p>仮想マシンの Microsoft アプリケーションデータをバックアップする必要条件</p>	<p>Backup Exec Agent for VMware</p>	<p>次の文は正しくありません。</p> <p>Backup Exec Granular Recovery Technology (GRT) を使用する場合は、Agent for Applications and Databases を購入し、仮想マシンにインストールする必要があります。</p> <p>次の正しい文で既存の文を置換する必要があります。</p> <p>Backup Exec の Granular Recovery Technology (GRT) を使う場合、Backup Exec Agent for Applications and Databases を Backup Exec サーバーにインストールし、Agent for Windows を仮想マシンにインストールする必要があります。</p>

トピック	章	リビジョン
Agent for Enterprise Vault について	Symantec Backup Exec Agent for Enterprise Vault	<p>以下の項目はコンポーネントの [Enterprise Vault のデータベースとコンポーネント (ボルトストア、インデックス、パーティション、ボルトストアデータベース、ディレクトリ、監視、フィンガープリント、FSA レポートおよび監査のデータベース)] の表 I-1 の [ユーザークレデンシヤル] 列から削除する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーアカウントは Enterprise Vault データベースが存在するすべてのコンピュータの Backup Operators グループに含まれている必要があります。Enterprise Vault のパーティションでは、ユーザーアカウントは Administrators グループに含まれている必要があります。 ■ 注意: パーティションがあるコンピュータ、またはパーティションとデータベースがあるコンピュータをバックアップするには、コンピュータの管理者のグループのメンバーである必要があります。Enterprise Vault のデータベースのみ備えているコンピュータをバックアップするには、Backup Operators グループのメンバーであることのみが必要です。
オフホストバックアップについて	Symantec Backup Exec Advanced Disk-based Backup Option	<p>次の項目が Advanced Disk-based Option のオフホストバックアップによってサポートされない機能のリストに含まれている必要があります。</p> <p>カタログを使用するファイルのバックアップ方法</p>
Backup Exec サーバーの管理対象 Backup Exec サーバーへの変更	Symantec Backup Exec Central Admin Server Option	<p>このトピックの手順は正しくありません。正しい手順のために、Central Admin Server Option の章の「集中管理サーバーからの管理対象 Backup Exec サーバーのブッシュインインストール」のトピックを参照してください。</p>

トピック	章	リビジョン
仮想マシンの変換オプション	仮想化	<p>表 16-6 のオプション [VMware Tools の ISO イメージの完全パス:] の定義には、次の正しくない文が含まれています。</p> <p>ネットワークディスクを使用する場合、ローカル Backup Exec サーバーにマップしたドライブを使用することをお勧めします。</p> <p>表 16-7 のオプション [Hyper-V Integration Components ISO イメージの完全パス] の定義には次の正しくない文が含まれています。</p> <p>注: リモート共有には UNC パスを使用できません。ただし、ドライブをリモート共有にマップすることはできます。</p> <p>VMware と Hyper-V の場合、ISO イメージはマップしたドライブ上には置けません。</p>
Backup Exec エージェントの重複排除の方式	Backup Exec Deduplication Option	<p>[Backup Exec エージェントの重複排除の方式] という名前の表の [クライアント側の重複排除 (ファイルシステム/VSS)] という名前の列の Agent for Enterprise Vault のエントリは [いいえ] にする必要があります。</p> <p>ファイルシステムバックアップ用のクライアント側の重複排除方式は Agent for Enterprise Vault をサポートしていません。</p> <p>さらに、[クライアント側の重複排除 (ファイルシステム/VSS)] の列は、[クライアント側の重複排除 (ファイルシステムのバックアップまたは VSS スナップショットを有効にしたバックアップのいずれもサポート)] とされる必要があります。</p>

トピック	章	リビジョン
Exchange Agent 使用上の必要条件	Symantec Backup Exec Agent for Microsoft Exchange Server	Exchange Server の必要条件の表のすべての Exchange Server での操作の列のエントリには、ユーザーアカウントが次のグループのメンバーでなければならないことを含む必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Exchange Organization Management グループ (2010/2013) ■ Exchange Organization Administrators グループ (2007)
SQL 2005 または 2008 インスタンス用の CASO の SQL ポートの開放	Symantec Backup Exec Central Admin Server Option	このトピックの手順は正しくありません。正しい手順は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 集中管理サーバーで、[スタート] > [Microsoft SQL Server (バージョン番号)] > [構成ツール] > [SQL Server 構成マネージャ] をクリックします。 2. [SQL Server ネットワーク構成] を展開し、中央管理サーバーが使用中の SQL Server インスタンスの [プロトコル] をクリックします。 3. [TCP/IP] をダブルクリックし、[IP アドレス] タブをクリックします。 4. TCP 動的ポート番号を入力します。 5. 管理対象 Backup Exec サーバーの別名を作成して、集中管理サーバーの SQL ポートへの接続を許可します。

ディスクストレージデバイスの場所の変更

既存のディスクストレージデバイスの場所を変更できます。

メモ: 元のディスクストレージデバイスのファイルを新しい場所にコピーする場合、.cfg ファイルはコピーしないでください。

ディスクストレージデバイスの場所を変更する方法

- 1 ディスクストレージデバイスの場所の変更処理が完了するまで、実行中またはスケジュールされたジョブがないことを確認してください。

- 2 次のいずれかを実行します。

Agent for VMware または **Agent for Microsoft Hyper-V** がインストールされていない場合

ストレージの設定ウィザードを使用して、元のディスクストレージデバイスとは名前とドライブ文字が異なる新しいディスクストレージデバイスを作成します。

Agent for VMware または **Agent for Microsoft Hyper-V** がインストールされている場合

ディスクストレージデバイスの新しい場所には、既存のディスクストレージデバイスと同じドライブ文字を使う必要があります。

次に示す順序で操作を実行します。

- **Windows** では、既存のディスクストレージデバイスのディスクボリュームに新しいドライブ文字を割り当ててください。
 - **Windows** では、新しいディスクストレージボリュームに、既存のディスクストレージデバイスが元々持っていたドライブ文字を割り当ててください。
 - ストレージの設定ウィザードを使用して、既存のディスクストレージデバイスが元々持っていたのと同じドライブ文字を持つディスクストレージデバイスを新規で作成します。
- 3 **Windows** エクスプローラで、元のディスクストレージデバイスの **¥BEData** フォルダから **.cfg** ファイルを除くすべてのファイルをコピーして新しい場所にある **¥BEData** フォルダに貼り付けます。
 - 4 **Windows** エクスプローラで、元のディスクストレージデバイスからすべてのファイルを削除します。
 - 5 元のディスクストレージデバイスを削除します。
 - 6 新しいディスクストレージデバイスの名前を元のディスクストレージデバイスの名前に変更します。
 - 7 **Backup Exec** 管理コンソールで、新しいディスクストレージデバイスを右クリックし、[インベントリとカタログ]をクリックします。

『Symantec Backup Exec 2012 管理者ガイド』の次のトピックを参照してください。

- ストレージデバイスの削除
- ストレージデバイスのインベントリとカタログ登録

『Backup Exec 2012 管理者ガイド』への追加

Backup Exec 2012 SP2 では、次のトピックが新たに追加されました。

- 「[Windows Server 2012 のサポート](#)」
- 「[バックアップ定義のファイルの選択または除外について](#)」
- 「[Windows Server 2012 Hyper-V ホストへの物理コンピュータの変換に関する特別な考慮事項](#)」
- 「[Agent for Hyper-V に関する注意事項](#)」

Windows Server 2012 のサポート

Backup Exec 2012 SP2 は一部の制限を除き、Windows Server 2012 をサポートしています。Windows Server 2012 コンピュータには Backup Exec サーバーをインストールできません。ただし、オペレーティングシステムとレガシー機能が搭載された Windows Server 2012 コンピュータのバックアップとリストアには Agent for Windows が使えます。ReFS ボリュームや Windows での重複排除を有効にしたボリュームに Agent for Windows はインストールできません。

Backup Exec は Windows 重複排除を有効にしたボリュームでの重複排除されていないデータのバックアップをサポートしています。Windows の重複排除を有効にしたボリュームからデータをバックアップしようとした場合は、Backup Exec では元の重複排除されていない形式のデータをバックアップします。バックアップを実行する前に重複排除されていないデータに十分なストレージ容量があること確認してください。

Backup Exec は、Windows の重複排除を有効にしたボリュームの非重複排除リストアをサポートしています。Windows の重複排除を有効にしたボリュームからファイルをリストアすると、Backup Exec は重複排除されていないファイルとしてそれらのファイルをディスク上に配置します。リストアジョブを実行する前に重複排除されていないデータをリストアするには、十分なディスク容量があること確認してください。

Simplified Disaster Recovery (SDR) は Windows Server 2012 をサポートしていません。以前のバージョンの Windows からアップグレードされた Windows Server 2012 コンピュータをバックアップするために SDR バックアップジョブを実行する場合は、以前のバージョンの Windows と Windows Server 2012 のリストアに SDR リモートリカバリを使用することはできません。ただし、以前のバージョンの Windows をバックアップした時点からのディザスタリカバリ情報ファイルとバックアップのセットがある場合は、SDR ローカルリカバリを実行できます。ディザスタリカバリ情報ファイルがない場合は、Backup Exec を使って手動ディザスタリカバリを実行できます。手動ディザスタリカバリの実行について詳しくは、『Backup Exec 管理者ガイド』の「ディザスタ準備とリカバリ」についての章を参照してください。

特定の制限事項について詳しくは、Backup Exec 2012 SP2 Readme ドキュメントを参照してください。

バックアップ定義のファイルの選択または除外について

バックアップ定義のバックアップ選択項目を修正したい場合は、バックアップ定義を開き、[選択リスト]ボックスの[編集]を選択します。次に、[バックアップ選択リスト]ダイアログボックスで、[選択の詳細]タブを選択します。

[選択の詳細]タブでは、ファイル属性を選択してバックアップ用のファイルを簡単に選択したり、除外したりできます。除外はバックアップ定義内のジョブすべてに適用されます。

次のいずれかを実行できます。

- サブディレクトリを含めたり、除外できます。たとえば、親フォルダをその下位にあるフォルダを除外してバックアップできます。
- 修正したファイルのみを含めることができます。たとえば、前回のバックアップジョブ以降に変更されたファイルのみをバックアップできます。
- 読み取り専用ファイルのみを含めることができます。
- ファイル名属性を指定し、その属性のファイルをバックアップの対象に含めたり、バックアップの対象から除外したりすることができます。たとえば、拡張子 `.txt` のファイルのみをバックアップしたり、拡張子 `.exe` のファイルをバックアップから除外することができます。存在しない属性を使用してファイルを除外すると、その種類のすべてのファイルが除外されます。たとえば、SQL データベースの日付に基づいて除外した場合、SQL データベースには日付属性がないため、グローバル SQL エクススクードが実行されます。
- 日付の範囲を指定し、該当するファイルのみを選択できます。たとえば、12 月に作成または修正したファイルをバックアップの対象として選択できます。
- 期間 (日数) を指定し、その期間アクセスされていないファイルをバックアップの対象として選択することができます。たとえば、My Documents フォルダ内に存在する過去 30 日間アクセスされなかったファイルを選択できます。その後、ファイルをバックアップして削除する方式を選択した完全バックアップジョブを実行します。

Backup Exec Archiving Option はデータアーカイブに対してさらに機能を提供します。

[バックアップオプション]ダイアログボックスの[エクススクード]オプションを使って、バックアップ定義に含まれる増分バックアップジョブと差分バックアップジョブの特定の除外を設定できます。

グローバルな除外を設定することもできます。グローバルな除外は、作成するすべてのバックアップジョブに適用されます。

Windows Server 2012 Hyper-V ホストへの物理コンピュータの変換に関する特別な考慮事項

Windows Server 2012 Hyper-V ホストへ物理コンピュータを変換するジョブを作成する前に、次の情報を見直します。

- ディスクデータは Windows Server 2012 Hyper-V ホストへの物理コンピュータの変換用の VHDX ファイルに格納されます。
- シンプルな GPT ディスクの変換がサポートされています。
- ストレージ領域はサポートされていません。
- 物理コンピュータが ReFS ボリュームを備えた Windows Server 2012 を実行している場合は、Windows Server 2012 Hyper-V ホストへの変換はサポートされます。以前のバージョンの Windows Hyper-V ホストへの変換はサポートされません。そのため、それらのジョブは失敗します。
- 物理コンピュータが 1 つ以上の Windows 重複排除ボリュームを備えた Windows Server 2012 を実行している場合は、Hyper-V ホストへの変換は可能ですが、失敗する場合があります。変換されたディスクデータは重複を排除されません。つまり、最適化されていないデータ転送が実行されます。そのため、最適化されていないデータの量が保存先ボリュームの容量を超える場合は変換が失敗することがあります。

Agent for Hyper-V に関する注意事項

ここでは、Agent for Hyper-V の Windows Server 2012 上での動作についての固有の情報と、Backup Exec のこのリリースでサポートされている Windows のバージョンで Agent for Hyper-V を使う場合の一般的な注意事項について説明します。

p.16 の [Agent for Hyper-V と Windows Server 2012 の連動についての注意事項](#) を参照してください。

p.19 の [Agent for Hyper-V についての一般的な注意事項](#) を参照してください。

Agent for Hyper-V と Windows Server 2012 の連動についての注意事項

Backup Exec 2012 SP2 Agent for Hyper-V では、Microsoft Windows Server 2012 でホストされている Hyper-V 仮想マシンのバックアップとリストアができます。このバージョンの Backup Exec は、Windows Server 2012 VHDX ファイル形式と Microsoft 増分バックアップをサポートしています。

Microsoft の新しい VHDX ファイル形式は 64 TB までのサイズの仮想ディスクをサポートします。Backup Exec は VHDX ベースの仮想マシンのバックアップとリストアをサポートします。Backup Exec は VHDX ファイルを VHD ファイルの処理方法と同様に処理します。

VHDX ファイルの場合の場合は、仮想マシンファイルまたはフォルダレベルの Granular Recovery Technology (GRT) とアプリケーションレベルの GRT は次のように処理されます。

- 仮想マシンに VHD ファイルのみがある場合は、ファイルまたはフォルダレベルの GRT とアプリケーションレベルの GRT の両方が全面的にサポートされます。

- 仮想マシンに VHDX ファイルのみがあり、VHDX の容量が 2 TB 未満の場合は、ファイルまたはフォルダレベルの GRT とアプリケーションレベルの GRT がサポートされます。VHDX ファイルの容量が 2 TB を超える場合は、ファイルまたはフォルダレベルの GRT とアプリケーションレベルの GRT はサポートされません。ジョブは、[成功 (例外処理あり)] というステータスで完了しますが、GRT リストア機能は利用できません。仮想マシンの完全リストアは利用可能です。
- 仮想マシンに VHD ファイルと VHDX ファイルが混在していてもすべての VHDX ファイルの容量が 2 TB 未満である場合は、ファイルまたはフォルダレベルの GRT とアプリケーションレベルの GRT の両方が全面的にサポートされます。
- 仮想マシンに VHD ファイルと VHDX ファイルが混在していても 1 つ以上の VHDX ファイルの容量が 2 TB を超える場合は、ファイルまたはフォルダレベルの GRT とアプリケーションレベルの GRT はサポートされません。ジョブは、[成功 (例外処理あり)] というステータスで完了しますが、GRT リストア機能は利用できません。仮想マシンの完全リストアは利用可能です。

アプリケーションレベルの GRT は Microsoft Active Directory 2012 と SQL 2012 をサポートしています。Microsoft SharePoint Server 2013 と Microsoft Exchange Server 2013 の場合は、限定されたアプリケーション GRT がサポートされています。SharePoint 2013 の場合は、個々のドキュメントはリストアできませんが、コンテンツデータベース全体をリストアできます。Exchange 2013 の場合は、個々のメールボックス項目はリストアできませんが、データベース全体とログはリストアできます。

Hyper-V の Microsoft 増分バックアップは Backup Exec の増分バックアップとは異なります。仮想マシンの Microsoft 増分バックアップ方式の設定に Backup Exec 内で利用できるオプションはありません。その代わりに、Microsoft 増分バックアップを構成するには、Hyper-V ホスト上で PowerShell を使う必要があります。Microsoft 増分バックアップの設定は個々の仮想マシンのプロパティとして適用されます。そのため、一部の仮想マシンでは他のマシンが使っていない間は Microsoft 増分バックアップ方式を使う場合があります。バックアップジョブを実行する前に Microsoft 増分バックアップ方式を使うには仮想マシンを構成する必要があります。Microsoft 増分バックアップ方式を有効にしている仮想マシンの場合は、Backup Exec 増分バックアップが実行されます。Microsoft 増分バックアップ方式が有効になっている仮想マシンの場合は、Backup Exec 増分バックアップの代わりに Microsoft 増分バックアップが実行されます。Backup Exec のジョブログには、使われた増分バックアップ方式のリストが表示されます。Microsoft 増分バックアップを有効にした仮想マシンの Backup Exec の差分バックアップはサポートされていません。そのため、その構成を持つジョブは失敗します。

メモ: Microsoft のバックアップを使うには、Hyper-V ホストに Windows Server 2012 がインストールされていて、仮想マシンに Windows Server 2012 バージョンの Hyper-V Integration Services を使う必要があります。

メモ: ワンタイムバックアップジョブによって、Microsoft 増分バックアップが有効になっている仮想マシンが、次にスケジュール設定されている完全なジョブまたは増分ジョブ時に、完全バックアップを実行する場合があります。

Windows Server 2012 で Agent for Hyper-V を使う場合、次の制限事項が適用されます。

- ファイバーチャネル HBA が構成された仮想マシンはバックアップジョブ時はスキップされます。ジョブログには仮想マシンがスキップされたことを示すメッセージのリストが表示されます。
- VHDX ファイルの重複排除ストリームハンドラはサポートされていません。
- リモート VSS はサポートされていません。
- Windows 2012 Hyper-V 仮想マシンの VSS コピーバックアップはサポートされていません。
- ファイルまたはフォルダレベルの GRT は Windows 2012 Resilient File System (ReFS) を使うボリュームをサポートしていません。さらに、ReFS ボリュームがある仮想マシンではアプリケーションレベルの GRT は実行できません。

メモ: ファイルまたはフォルダレベルの GRT は NTFS が構成されているボリュームをサポートしています。

- ファイルまたはフォルダレベルの GRT は Windows 2012 の重複排除が有効になっているボリュームをサポートしていません。さらに、アプリケーションレベルの GRT は Windows 2012 の重複排除が有効になる仮想マシンでは実行できません。

メモ: ファイルまたはフォルダレベルの GRT は NTFS が構成されているボリュームをサポートしています。

- Hyper-V 2012 ホストからバックアップされた仮想マシンは、2008 や 2008 R2 のような以前のバージョンの Hyper-V がある仮想マシンにリストアできません。
- ストレージ領域を備えた仮想マシンは、Microsoft Hyper-V VSS がストレージ領域がある仮想マシンのスナップショットを取得できないため、サポートされていません。
- Hyper-V Replication 仮想マシンバックアップは、プライマリ仮想マシンと複製された仮想マシンという冗長なバックアップになる場合があります。
- GRT は、論理セクタサイズが 4,096 バイトの VHDX イメージファイルがある仮想マシンをサポートしていません。これは、アプリケーションレベルの GRT とファイルまたはフォルダレベルの GRT の両方に適用されます。この構成の仮想マシンの完全リストアは実行できます。

- リモート記憶領域が構成された仮想マシンはバックアップジョブ時はスキップされま
す。ジョブログにはスキップされたジョブについてのメッセージが含まれています。
- Windows 以外のオペレーティングシステムを実行し、VHDX イメージファイルを備え
た仮想マシンはサポートされていません。

Microsoft Windows Server 2012 の新しい機能について詳しくは、Microsoft 社の
Web サイトを参照してください。

Agent for Hyper-V についての一般的な注意事項

Agent for Hyper-V を Backup Exec 2012 やその他のサポートされている Microsoft
Windows のバージョンと使う場合の詳しい情報を以下に示します。

- GRT は、分割、ミラー、ストライプされたディスクや RAID 5 ディスクなどのダイナミック
ディスクを使う仮想マシンをサポートしていません。
- 仮想マシンで Windows 2008 オペレーティングシステムが使用されている場合は、
仮想マシンに存在する各 NTFS ボリュームにシャドウストレージを割り当てる必要があ
ります。これが割り当てられていないと、バックアップジョブは失敗します。
- マウントポイント内で作成された Hyper-V 仮想マシンのリストアは、そのマウントポイ
ントがリストア時に存在しない場合は失敗します。この問題を避けるためには、マウン
トポイントなしでボリューム GUID のパスを使うように仮想マシンを設定します。この問
題を解決するには、マウントポイントパスを作成し直すか、または仮想マシンをリストア
する前にマウントポイントを含んでいるボリュームをリストアします。
- GRT は、Windows Server 2008 以降の Server Core インストールでサーバーロー
ルとしてインストールした Hyper-V ホストで実行されている Exchange 2003 仮想マ
シンのテープへのバックアップをサポートしていません。ディスクストレージデバイスへ
のバックアップはサポートされています。
- Backup Exec は重複した名前がある仮想コンピュータをサポートしません。
- サポートされている Microsoft SharePoint のバージョンを実行する仮想マシンを
Agent for Hyper-V を使ってバックアップした場合は、その仮想マシンでアプリケー
ションレベルの SharePoint の GRT が有効になっている場合は前処理に 30 分以上
かかる場合があります。
- ReFS ボリュームを含む Hyper-V 仮想マシンのバックアップを作成しているときに、次
のメッセージが表示されることがあります。
このバージョンの Windows は <ドライブ x> の ReFS 形式をサポートしません。
このメッセージはバックアップの作成に影響しません。[OK] をクリックしてメッセー
ジを閉じます。ファイルやフォルダレベルの GRT は ReFS を使うボリュームではサポ
ートされませんので注意してください。

